

# GENELEC®

**S360A**  
Smart Active Monitor

オペレーティング・マニュアル





## イントロダクション

Genelec SAM™ (Smart Active Monitor™) システムをご購入いただき誠にありがとうございます。本マニュアルでは、S360Aを単独でセットアップおよび使用方法について説明します。SAMモニターは、MacまたはPC用GLM™ (Genelec Loudspeaker Manager) ソフトウェアとGLMネットワークを用いてセットアップすることもできます。これらを使うことで音響設定や便利な機能をより柔軟にお使いいただけます。詳細は『GLMシステム操作マニュアル』をご参照ください

S360Aは、Genelecマスター・シリーズをベースに更に進化した高効率/低歪みの10インチ・ウーファー、そしてDCW™ (Directivity Control Waveguide) と一体化された1インチ・チタン製ダイアフラム・コンプレッション・ツイーターが採用されています。更にこれらの技術は、フィンランド木工技術によるコンパクトで回析の少ないエンクロージャーに収められています。32ミリ厚のフロント・バッフルと精巧なブレーシングがパネルの振動を最小限に抑制。不要な色付けは生じません。

最適に調整されたニュートラルな軸上特性、色付けのない軸外特性を特徴とし、可聴範囲全体において水平95度、垂直75度の指向性を実現する高精度モニターです。他のSAMモニター新製品と同様、再生可能な低域から一定の遅延、すなわちリア・フェーズ特性は、生産要件の適合範囲内に収められています。

ハイSPLとコンパクトなサイズを融合したS360Aは、映画やポスト・プロダクション、音楽スタジオでのモニタリング用途に最適です。サブウーファーと併用することで、リスニング距離が10メートルを超える場合でさえ、高級なホーム・シアターや、EDM音楽の再生、ドルビー・ミキシングなど、オーディオ・プロフェッショナルに求められる高い要求を満たします。S360Aは、指向性が適切に調整されており、ミッド・フィールドまたはニア・フィールド・モニタリングにも適しています。ミッド/ニア・フィールドで使用の場合は、本マニュアルの「安全なリスニング習慣」の章をよく読んでからご使用ください。

S360Aは、エンクロージャーに取付ポイントを2組備え、様々な設置方法に対応します。またアンプをエンクロージャーから取り外し、2Uのラック・インストール・キットに収めることでスピーカーと個別に設置することも可能です。LIP™ (Laminar Integrated Port) テクノロジーによる下向きのパスレフ・ポートが、多様な設置を可能にしまし

た。サウンド・スクリーンとの併用にも最適です。付属のIso-Plate™ は、フロア・スタンドにモニターを設置する際に土台とモニターを効果的に分離させることで、振動の伝播と気流の乱れを抑え低域の音像をフォーカスします。壁、天井、スタンド、トラスへの取り付けが可能な専用マウント・ブラケットも別途お求めいただけます。

## 同梱品

製品には以下が同梱されます。

- S360Aモニター x 1
- 電源ケーブル (1.8 m) x 1
- GLMネットワーク・ケーブル (5 m) x 1
- 本マニュアル

## GLMネットワークを用いたシステム設定

S360AはGLMソフトウェアとGLMネットワークなしで使用することも可能ですが、GLMソフトウェアを使用してセットアップおよびキャリブレーションを行うと全機能を最大限に発揮することができます。Genelecは、SAMシステムの設定にGLMソフトウェアを用いることを推奨しています。GLMソフトウェアによるセットアップと使用方法についての詳細は、同梱の『GLMシステム操作マニュアル』をご参照ください。

GLMソフトウェアはwww.genelec.jpより無料でダウンロードできます。GLMネットワーク構築に必要なハードウェアGLM User Kit (注文番号8300-601) は、別途ご購入いただけます。GLMキットには、キャリブレーション用の測定用マイクロフォンとGLM Adapterが含まれます。GLM Adapterは、GLMソフトウェアがインストールされたコンピューターと測定用マイクロフォン、すべてのモニターおよびサブウーファーを繋ぐためのデバイスです。

GLMソフトウェアとGLMネットワークを組み合わせることで、システム全体の音響イコライゼーション/位置補正/レベル補正を自動で行うことができます。シンプルなステレオから非常に複雑な3Dイメージ・オーディオまであらゆるシステムに対応可能です。GLMソフトウェアによるセットアップは、簡単かつ正確です。設定はMac/PCか



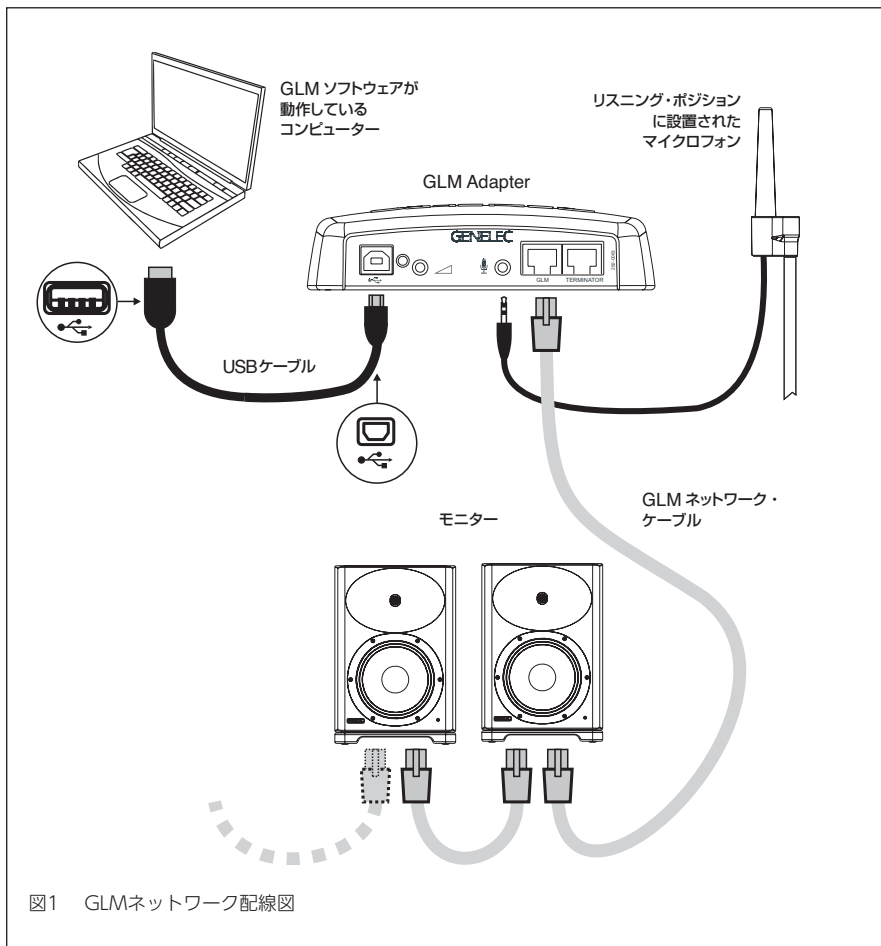


図1 GLMネットワーク配線図

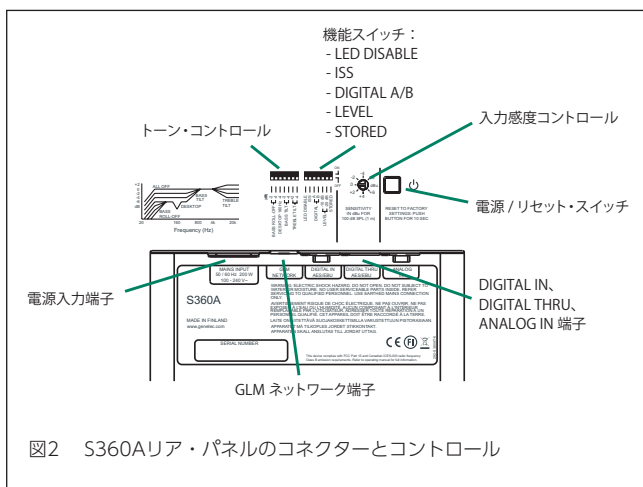


図2 S360Aリア・パネルのコネクターとコントロール



図3 コネクター・パネル拡大図

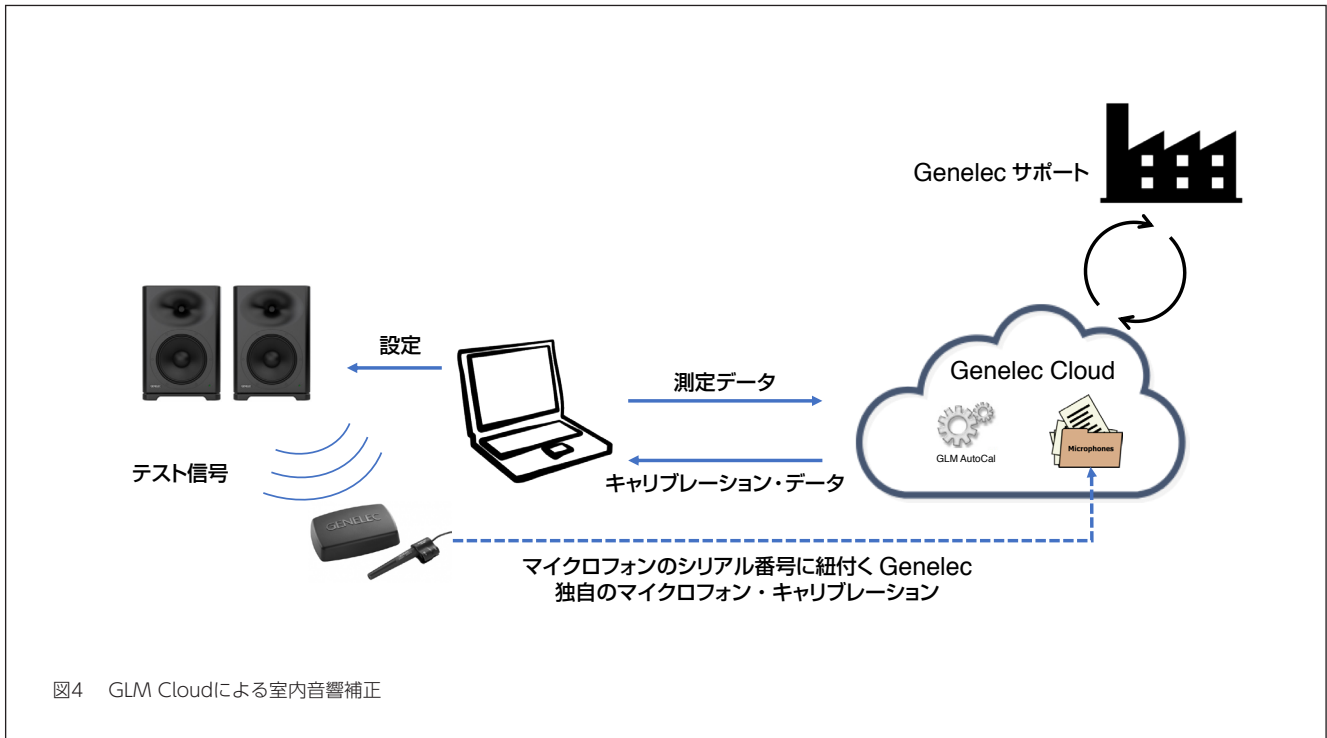
ら行うことができます。またモニター本体に設定情報を保存し、コンピューターを使わずに呼び出すことも可能です。セットアップ手順は次の通りです。

1. 各モニター（またはサブウーファー）をCAT5（RJ45）以上のケーブルで接続し、最後にGLM AdapterのGLMネットワーク入力に接続します（図1参照）。
2. GLM AdapterをコンピューターのUSBコネクターに接続します。
3. Genelec測定用マイクロフォンを取り付けたマイク・スタンドをリスニング・ポイントに設置します。マイクロフォンは上に向け、エンジニアの耳の高さに合わせてスタンドを調整します。測定用マイクロフォンはGLMキットに付属します。
4. マイク・ケーブルをGLM Adapterのマイク入力に接続します。

5. GLMソフトウェアをGenelecウェブサイト（[www.genelec.jp](http://www.genelec.jp)）からダウンロードします。
6. GLMソフトウェアをインストールして、GLMソフトウェアの指示に従って計測を実行してモニターを設定します。
7. モニターのコントロールにコンピューターを使用しない場合、GLMソフトウェアを使用して設定をモニター本体に書き込みます（メニュー項目[Group > Store Group Settings]を使用）。

GLMソフトウェアはクラウド上のコンピューターで音響補正の演算を行います。そのため常に最新のアルゴリズムによる優れた結果を得ることが可能です。Store Settings機能を使うことで、モニター本体にキャリブレーション設定データを保存することができます。

モニター本体に保存された設定情報は、GLMネットワークに接続されていない場合でもモニター背面のSTOREDスイッチをONにすることで呼び出しできます。



モニター取付環境	トレブルチルト	ベースチルト	ベースロールオフ	デスクトップ
響かずフラットな周波数特性環境	なし	なし	なし	なし
調音された室内で自立スタンドに設置	なし	-2 dB	なし	なし
反響する室内で自立スタンドに設置	なし	-4 dB	なし	なし
反響面上に置いたニアフィールド・リスニング	なし	-2 dB	なし	-4 dB
室内の隅	なし	-4 dB	-4 dB	なし

表1 モニター設置位置による「Tone Control」推奨設定

## インターフェース

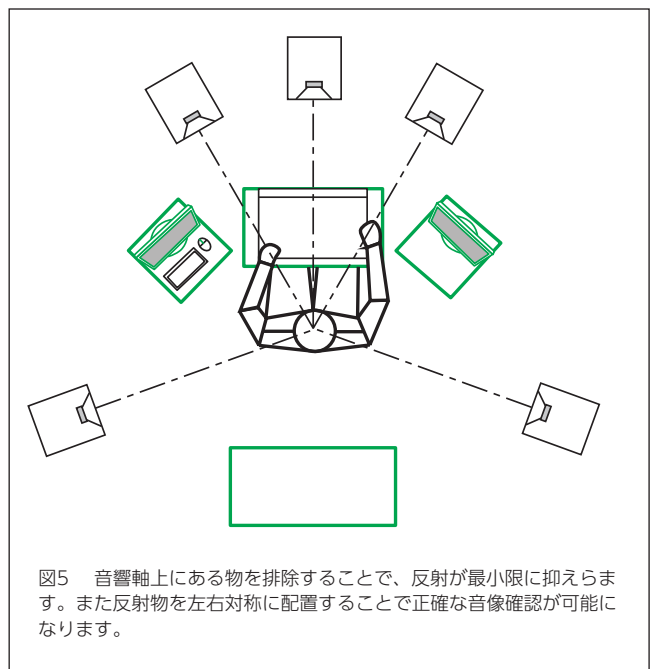
S360Aのリア・パネルにあるすべての接続端子は下向きに取り付けられています。これによりケーブル接続が簡単になるだけでなく、スピーカーをより壁に近づけて設置することができます。

MAINS INPUT端子に電源ケーブルを接続します。S360Aはグローバル電源規格に対応するため、世界中のどこでも使用可能です (AC100~240 V、50~60 Hz)。発電機やインバーター、低品質なUPS機器を使用する場合は、供給電圧を安定させるため高調波の除去を行うことをお勧めします。

GLMネットワークには、専用のRJ-45端子が使用されています。この端子はイーサネット規格のLANとは互換性を持っていないため、イーサネット規格のLANを接続しないでください。

ANALOG IN端子には、バランス・アナログ・オーディオ・ケーブルを接続できます。最大入力レベルは+25 dBuです。入力感度は初期設定で-6 dBuに設定されています。このときS360Aは1メートル離れた位置のフリー空間において音圧レベルが100 dB SPLの信号を出力します。アナログ入力インピーダンスは10 kΩに設定しており、ライン・レベル音声信号を入力出来ます (で駆動出来ます)。

DIGITAL IN XLRメス端子には、AES/EBU形式のデジタル音声信号を入力できます。S360Aはこの端子からデジタル音声信号を検知す



ると、入力設定は自動的にデジタル入力に変わります。無音のデジタル信号が検出された場合も同様です。AES/EBU信号入力が入力が切断されると、アナログ入力が入力源として再び選択されます。AES/EBU入力は、1本のケーブルで2チャンネルの信号を伝送します。この端子に入力されるデジタル・ソースを送信するデバイスがレベル・コントロールに対応する場合は、モニター側でレベルを抑えた方が良いでしょう。これにより適切なデジタル解像度を得ることができます。デジタル入力レベルは0 dBFS (デジタル・フル・スケールに対するdB。AES/EBU信号で得られる最大レベル。) を基準にしています。S360Aの感度は、-30 dBFSのデジタル入力信号を出力した場合1メートル離れた位置のフリー空間においての音圧レベルが100 dB SPLとなる様に調整されています。

DIGITAL OUT XLRオス端子は、デジタル入力に入った信号をそのままコピーし、出力します。最大4台のモニターをデジター・チェーン接続することが可能です。

## システム・モニタリング

S360Aは、内部温度、アナログ入力レベル、トランスデューサー（ドライバ）への入力レベル、アナログ入力クリップ、デジタル・オーディオ・フル・スケール警告、オーバーロード保護回路のオン/オフ情報をモニターする機能を備えています。またGLMソフトウェアを使うことで、モニター・グループのすべてのモニターに関するこれらの情報を確認することができます。

## 省電力モード

信号が入力されない状態が一定時間続くと、ISS (Intelligent Signal Sensing) 機能によりモニターが自動的にディープ・スリープ状態に入ります。消費電力が1ワット以下の省エネ・モードです。ISSが有効になると、モニターの電源を入れたままにしておくことができ、いつでもモニターを使用できるスタンバイ状態に保つことができます。入力信号を検知するとS360Aはスリープから自動的に復帰します。

## 安全なリスニング習慣

S360Aは非常にパワフルなモニターです。安全な使用を心がけてください。特に至近距離でのリスニングの際はご注意ください。

一時的または永続的な難聴は、音響パワーではなく、音響エネルギーが原因となります。つまり、短時間であれば高い音圧レベル (SPL) を聴くこと自体は問題ではなく、むしろ音圧が低くてもそれが一定時間続くことが問題となります。たとえば、ピーク値が約100 dB SPLのサウンドを聴いても通常は問題ありません。しかし90 dB SPLのサウンドを2時間聴き続けた場合は、難聴の危険があります。

A特性で重み付けされた音圧を持つ定常音のレベルは「音響暴露」と呼ばれ、聴覚障害の危険度を測る適切な指標として使用されています。通常の臨床試験では診断できず長年無害と考えられていた音響暴露が、実際には永続的な難聴を引き起こす可能性があることが最近の研究で明らかになりました。

医療研究によると、安全なリスニング習慣のためには成人の場合80 dB (A) の音響暴露を週に40時間までに抑えるべきとされています。これを等エネルギーの原則に基づいて換算すると、83 dB (A) の場合20時間、86 dB (A) の場合10時間に相当します。毎週2日間は極端な音響暴露がない生活の場合、残りの5日間は1日あたり80 dB (A) の音を8時間聴けることとなります。

GLMソフトウェアを使用すると、1日あたりのSPLが限度を超えないようリスニング・レベルを調整可能です。音響暴露レベルが予測しやすくなるだけでなく、S360Aのヘッドルームを適切に保つことにも繋がります。特にヘッドルームの確保は、S360Aをミッド/ニア・フィールドで使用する場合に非常に重要となります。

## 音響的考察

音響軸がリスニング・ポジションに向くようにモニターの向きを調整してください (図5参照)。クロスオーバー周波数周辺での音響キャンセレーションを無くすため、垂直方向の向きも調整してください。各モニターを左右対称に、リスニング・ポジションからの距離が等しくなるように設置します。可能であればリスニング・ポジションが部屋の中心線上に来るように設定してください (図5参照)。モニター後方の壁とモニターとの距離が離れている (1~2 m以上) 場合は、壁による反射が

低域キャンセレーションを引き起こし、結果として低域出力の低下につながります。

机や家具、コンピューター・モニターなどの物による反射は、不要な色づけやサウンド・イメージのぼやけの原因となります。反射面からモニターを離して設置することで、これらの問題を最小限に抑えることができます。またスタンドを用いてモニターをミキシング・コンソールの後ろ上方に設置すると、メーター・ブリッジ上にモニターを設置する場合よりも優れた音響特性が得られます。音が反射する物がある場合は、それらを左右対称に設置することでサウンド・ステージのバランスを保つことができます (図5参照)。

## GLMを使用せずにスタンドアロンで セットアップを行う

S360Aは、モニター本体に基本的な音質調整、入力選択、レベル・キャリブレーション・コントロール機能を備えています。GLMソフトウェアを使用できない場合は、これらの機能を用いてシステムのセットアップを行うことも可能です。GLMソフトウェアに比べ制限はありますが、基本的な音質補正と入力ソースの切り替えは可能です。これらの機能を使用する場合は、STOREDスイッチを「OFF」に設定してください。

S360Aのセットアップはスタンドアロンでも可能ですが、GLMソフトウェアとGLMネットワークを用いて設定とキャリブレーションを行うことで、モニターのポテンシャルを最大限に引き出すことが可能になります。Genelecは、SAMシステムの設定にGLMソフトウェアを用いることを推奨しています。

### BASS ROLL-OFF (ベース・ロールオフ・コントロール)

カットオフ周波数付近の出力を減衰する機能です。減衰レベルは-2 dB、-4 dB、-6 dB (両方のスイッチを「ON」) から選択できます。

### DESKTOP 160 Hz (デスクトップ160 Hz)

160 Hz付近の周波数を4 dBの範囲で減衰する機能です (スイッチ5)。メーター・ブリッジやテーブルなど反射物の上にモニターを設置した際に生じがちな160 Hz付近の周波数のブーストを抑える目的で搭載されました。

### BASS TILT (ベース・チルト)

3種類の減衰レベル設定で800 Hz以下の低域レスポンスを調整します。モニターが部屋の壁付近に設置されている場合に生じる低域ブーストに対応します。減衰レベルは-2 dB、-4 dB、-6 dB (両方のスイッチを「ON」) から選択できます。

### TREBLE TILT (トレブル・チルト)

3種類の調整レベルで2 kHz以上の高域レスポンスを補正します。+2 dB、-2 dB、-4 dBから選択できます。極端に明るいまたは鈍い音特性の補正や、モニターがスクリーンの背後に設置され、高域が減衰している場合などに有効です。-2 dBを選択するには、両方のスイッチを「ON」にします。

### LED DISABLE (LEDの無効化)

フロント・パネルのLEDを消灯します。

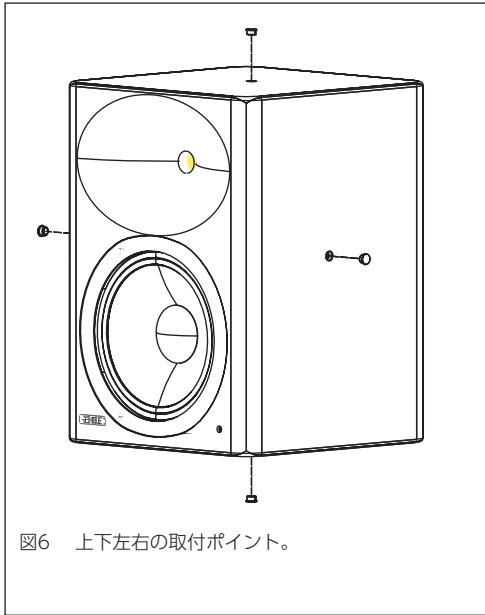


図6 上下左右の取付ポイント。

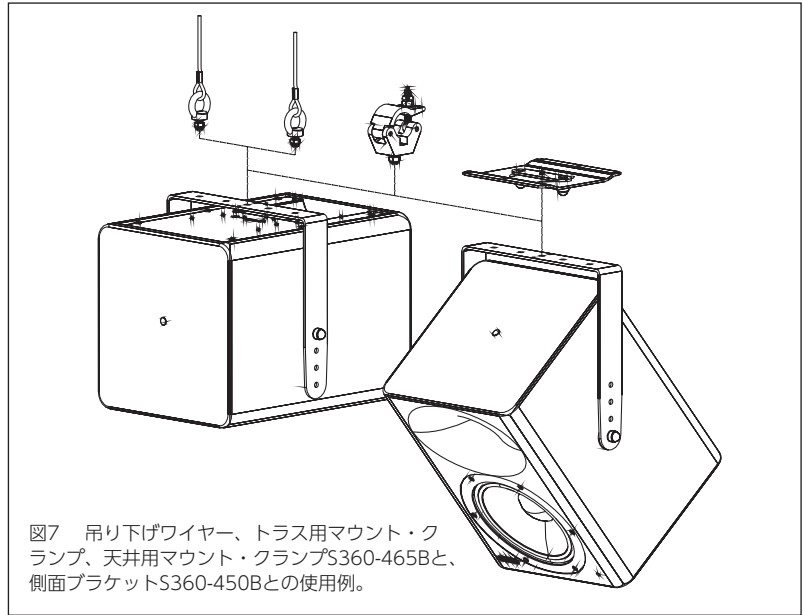


図7 吊り下げワイヤー、トラス用マウント・クランプ、天井用マウント・クランプS360-465Bと、側面ブラケットS360-450Bとの使用例。

色	表示内容
緑 (点灯)	通常の状態
緑 (点滅)	GLMにより調整中
緑 (10秒ごとに点滅)	ISS省電力モードのスリープが有効
赤 (点滅)	パワー・アンプの保護回路オン (保護回路で信号が変更された状態)
赤 (点灯)	ミュート状態
黄色	モニターが選択されたグループの一部でない
黄色 (点滅)	加熱保護回路オン (保護回路で信号が変更された状態)

表2 フロント・パネルのLED表示概要

## ISS

自動省電力機能ISSのオン/オフを切り替えるスイッチです。信号入力途切れてからISSが起動するまでの時間は初期設定で60分に設定されています。この値はGLMソフトウェアで変更可能です。

## DIGITAL (デジタル)

AES/EBUケーブルから入ってくる2つのチャンネルのうち、モニターから出力するオーディオ・チャンネルを選択するスイッチです。両方のスイッチをオンにするとAおよびBチャンネルがミックスされた後に出力されます。このときモニターの歪みを防ぐため、信号が6 dB減衰されます。AES/EBUケーブルがデュアル・ワイヤー・モードの場合はS360Aが自動的にこれを検出し、チャンネル選択スイッチは無効になります。

## LEVEL (レベル)

モニター出力レベルを10 dB単位で減衰するスイッチです。各スイッチの効果は、入力感度コントロールと合算されます。したがって全体で-42 dBの範囲で調整が可能です。



図8 振動を抑制するIso-Plate™と下向きのデュアル・バスレフ・ポート

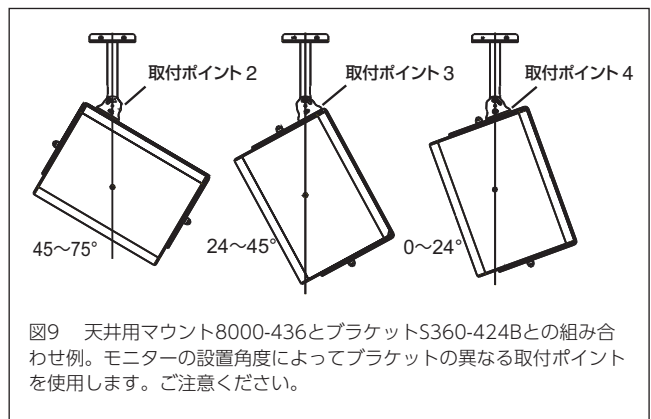


図9 天井用マウント8000-436とブラケットS360-424Bとの組み合わせ例。モニターの設置角度によってブラケットの異なる取付ポイントを使用します。ご注意ください。

## STORED

モニターのリア・パネルの設定、もしくはGLMソフトウェアで本体内部メモリに保存した設定のどちらを使用するかを選択するスイッチです。OFFにするとモニターのリア・パネルでの設定が有効になります。ONにするとGLMソフトウェアで保存した設定が有効になります。この



スイッチを用いると、リア・パネルでの設定を瞬時に置き換えることができます。

## フロント・パネルのLED

通常フロント・パネルのLEDは緑色に点灯します。特別な状況になるとLEDが赤色や黄色に変化します。詳細は表2をご参照ください。

## 動作環境

S360Aは室内での使用のみを想定して設計されています。動作適正温度は15～35℃で、動作相対湿度は20～80%（結露なし）です。低温環境で保管または輸送した後に暖かい部屋に搬入した場合は、結露を防ぐため30分～1時間程度放置し十分に製品が温まってから開封/電源投入を行ってください。十分な放熱効果を得るため、モニターの後ろ、上、左右は最低5 cmの隙間を空けて設置してください。

## モニターの取付と設置

### 取付

S360Aは、上下左右の面に取付ポイントを備えています。上下面用（S360-424B）および左右面用（S360-450B）の専用マウント・ブラケットをお求めいただけます。これらと各種Genelecマウント・アクセサリーを組み合わせることでフロア・スタンドや壁面および天井、トラスへの取付が可能です。取付ポイントのネジ穴はすべてM10（10 mm）仕様です。ネジはマウント・ブラケットに同梱されています。ブラケットには取り付けるモニターの向きと重心を調整可能にする複数の取付ポイントが備えられています。ボルトの締め付けトルクは10～20 Nm（7.4 - 14.8 lb ft）です。

上下面用マウント・ブラケットS360-424Bには、壁取付用マウントS360-444Bおよび天井取付用マウント・プレートS360-465Bをお使いいただけます。左右面用マウント・ブラケットS360-450Bには、フロア・スタンドS360-415Bおよび天井/トラス用マウントがお使いいただけます。

マウント・ブラケットを使用する場合は、Iso-Plate™を取り外してください。Iso-Plate™底面にある4つのゴム製力バーを慎重に取り外すと取付ネジが現れます。M6の六角レンチを使用しネジをIso-Plate™から取り外します。4つの振動ダンパーを反時計方向に回し取り外します。取り外したIso-Plate™やその他の部品は大切に保管してください。ブラケットに付属する取扱説明書の指示にしたがってエンクロージャーにブラケットを取り付けます。

### 壁面埋め込み式の設置

Genelec独自の振動抑制台Iso-Plate™は、壁面埋め込み型の設置を可能にします。S360Aは2種類の方法で壁面に埋め込むことができます。

1つ目はアンプをエンクロージャーに内蔵したまま埋め込む方法です。この場合アンプを安定動作させるため、エンクロージャー背面に排熱用の十分な空間を確保する必要があります。アンプ付近の空気が35℃を超えないようご注意ください。

2つ目の方法は、アンプを19インチ2Uのラック・マウント・キット9032Aに搭載し、エンクロージャーと個別に設置する方法です。標準的なスピコンとRJ45ケーブルでエンクロージャーとラック・マウント・キットに搭載したアンプを接続します。出力レベルが制限されるため、十分な排熱が行えるようにラックを設置してください。感電の危険があります！安全を確保するため、エンクロージャーからのアンプ取り



図10 S360A内蔵アンプをラック・マウント・キット9032Aに搭載した様子。

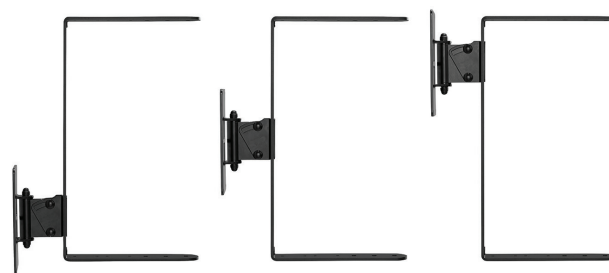


図11 壁用マウントS360-444Bは、上下用マウント・ブラケットS360-424Bに備えられた複数の取付ポイントに取り付け可能です。

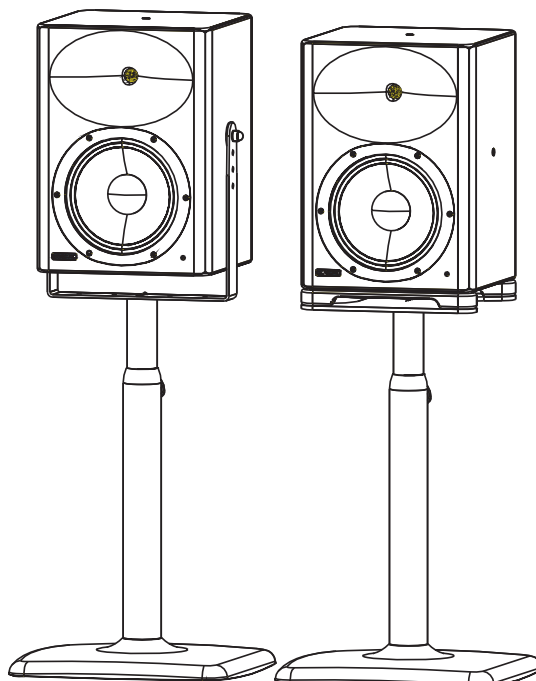


図12 左：側面マウント・ブラケットS360-450Bとフロア・スタンドS360-415Bの組み合わせ。Iso-Plateが取り外されています。右：スタンド・プレートS360-408Bとフロア・スタンドS360-415Bの組み合わせ。Iso-Plateを装着したまま設置可能です。

外しおよびラックへの装填は、Genelec認定サービスのみが行うことができます。

## サブウーファーと使用する

サブウーファーを導入する場合は、Genelec7300シリーズがおすすめです。特に7380および7382はS360Aとの最適な組み合わせと言えるでしょう。S360Aはサブウーファー用クロスオーバー・ハイパス・フィルターを備えます。50~100 Hzのクロスオーバー周波数を5 Hz単位で設定できます。設定はGLMソフトウェアで行い、サブウーファー7300シリーズとシステムの統合および正確な音響補正が簡単にできます。システム設定と適合製品に関する詳細は、Genelecウェブサイト(www.genelec.jp)をご参照ください。

## メンテナンス

モニタ内部には、ユーザー自身による点検修理が可能な箇所はありません。保守および修理はGenelec認定サービスでのみ実施可能です。

## アクセサリ

Genelecアクセサリの最新情報は、Genelecウェブサイト(www.genelec.jp)のアクセサリ・カタログをご覧ください。

## 安全性についての注意事項と警告

S360Aは国際安全基準に準拠するように設計されています。安全な動作を保証し、モニターを安全な動作条件下に保つため、以下の警告および注意に従ってください。

- Genelec認定サービス以外で保守/修理を実施しないでください。モニター・エンクロージャーを解体しないでください。
- 人身事故につながる可能性があるため、アース無しの電源に本製品を接続しないでください。
- 火災や感電を防ぐため、本体を水または湿気にさらさないでください。
- 花瓶など液体で満たされた物体をモニター上部や付近に設置しないでください。

- 電源ケーブルをアンプまたは電源コンセントから抜かない限り、アンプは電氣的に完全に遮断されないことにご注意ください。
- モニターは通気の良い場所で使ってください。モニターを十分冷却するためには、特にモニター背面に新鮮な空気が流れるようにしてください。

S360Aは永続的な聴覚障害を瞬時に引き起こす85 dB以上の音圧レベルを出力できます。電源供給時は、耳栓などの聴覚保護なしに本体の至近距離に立たないでください。

## 保証

Genelec S360Aには、購入日から2年間の製品保証が付いています。販売条件や保証に関する詳細は販売店にお問い合わせください。

## FCC規則への準拠

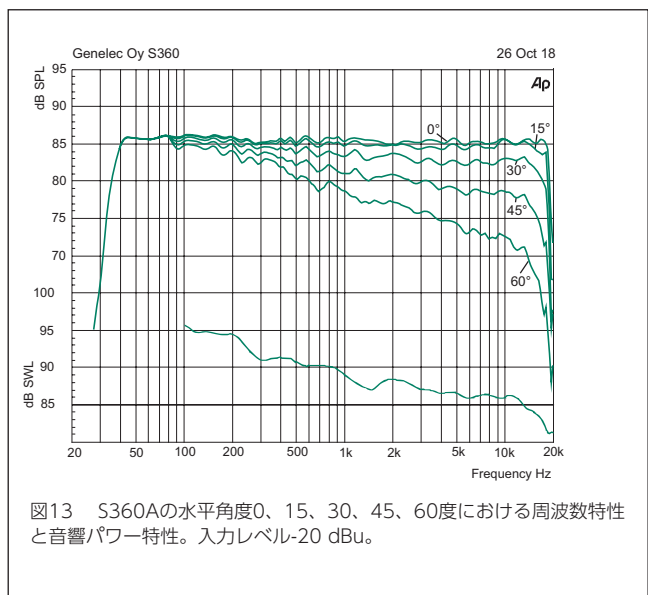
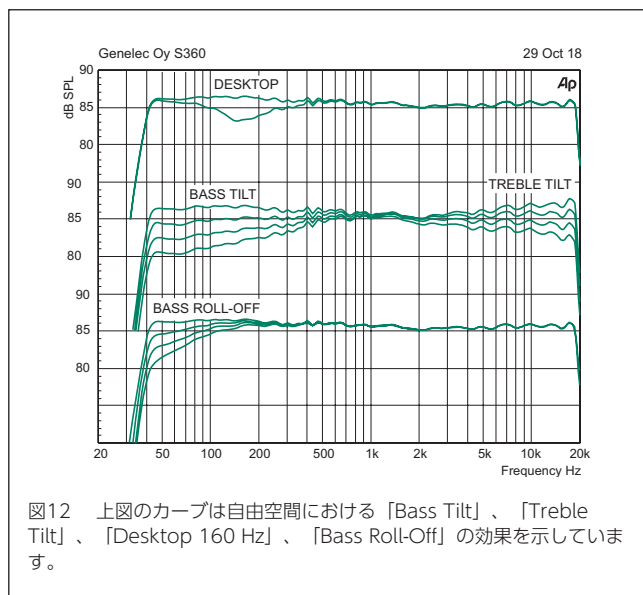
注：本製品は、FCC規則パート15に基づくクラスBデジタル機器の規格に準拠していることがテストによって確認されています。これらの規格は、住宅に設置した場合に生じる有害な干渉から適切な保護を提供することを目的としています。本製品は無線周波エネルギーを生成、使用、また放射出来る能力を持つため、指示に従わずに設置および使用された場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。

ただし、干渉が生じないことが保証される特別な設置方法はありません。本製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合(機器電源をオン/オフすれば判別できます)、以下の対策を1つ以上行うことで干渉をなくすようにしてください。

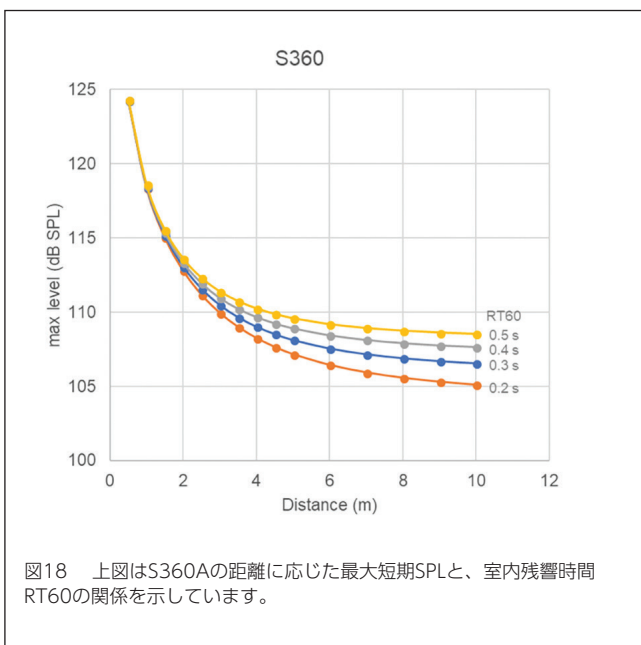
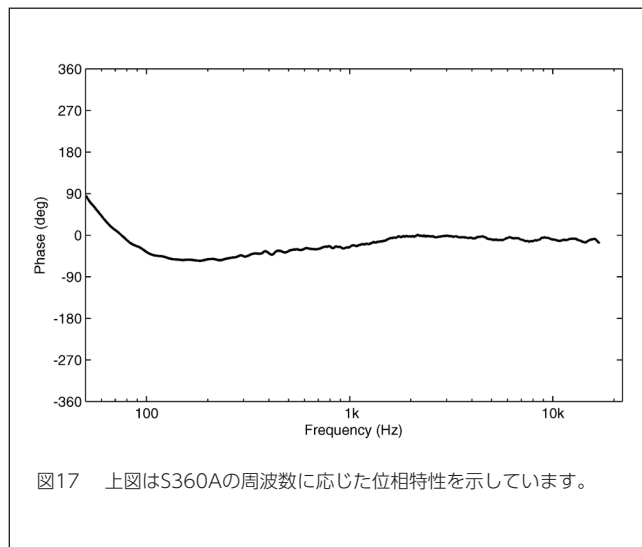
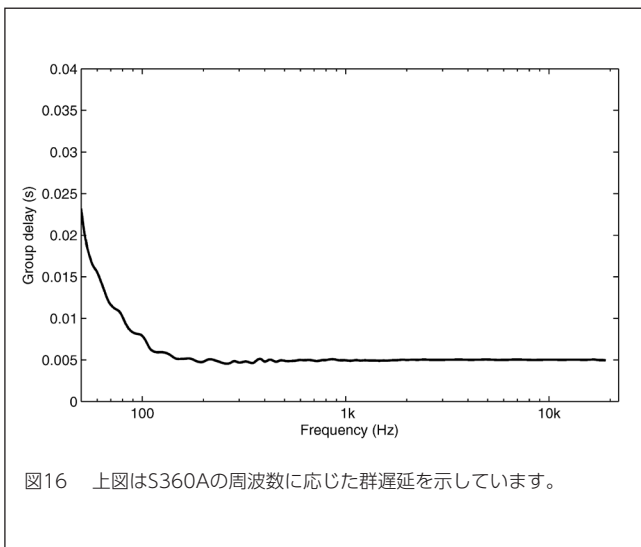
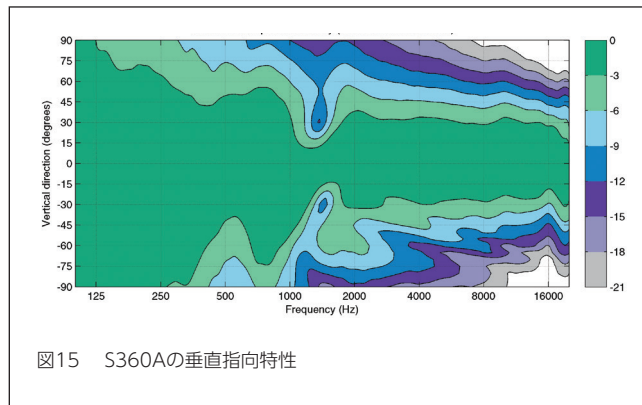
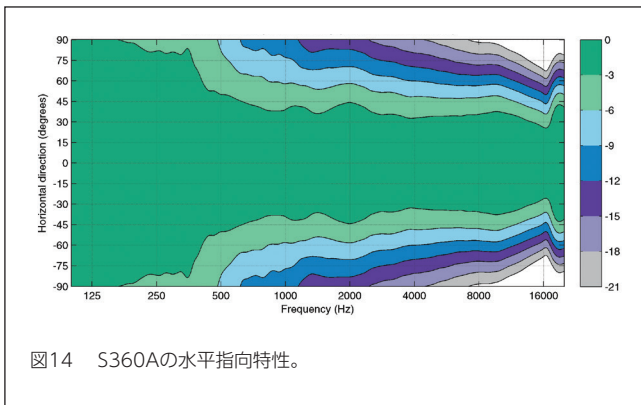
- 受信アンテナの向きまたは場所を移動する。
- 機器と受信機の距離を広げる。
- 受信機が接続されているコンセントと別系統のコンセントに機器を接続する。
- 販売店または経験豊富な無線/テレビ技術者に問い合わせる。

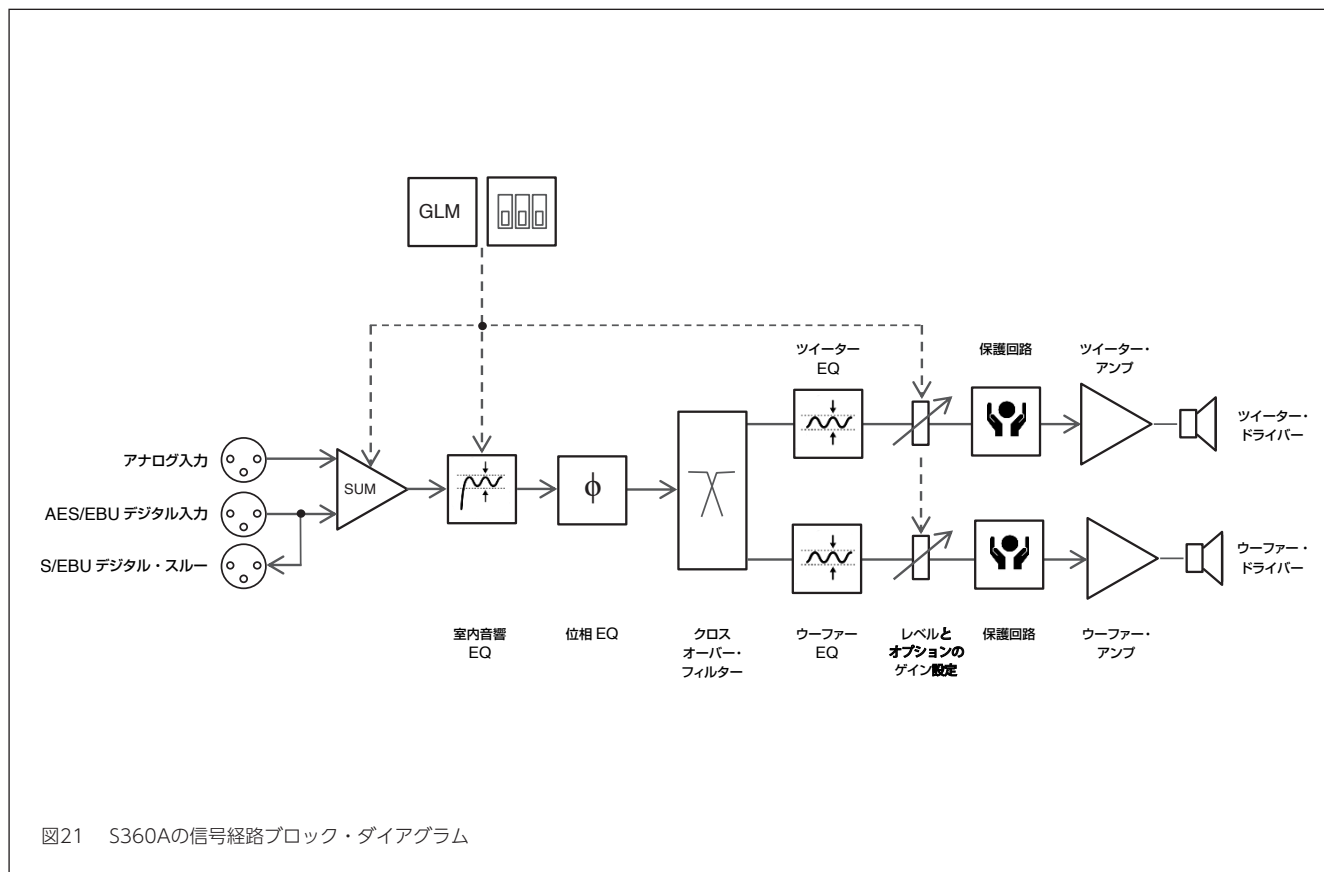
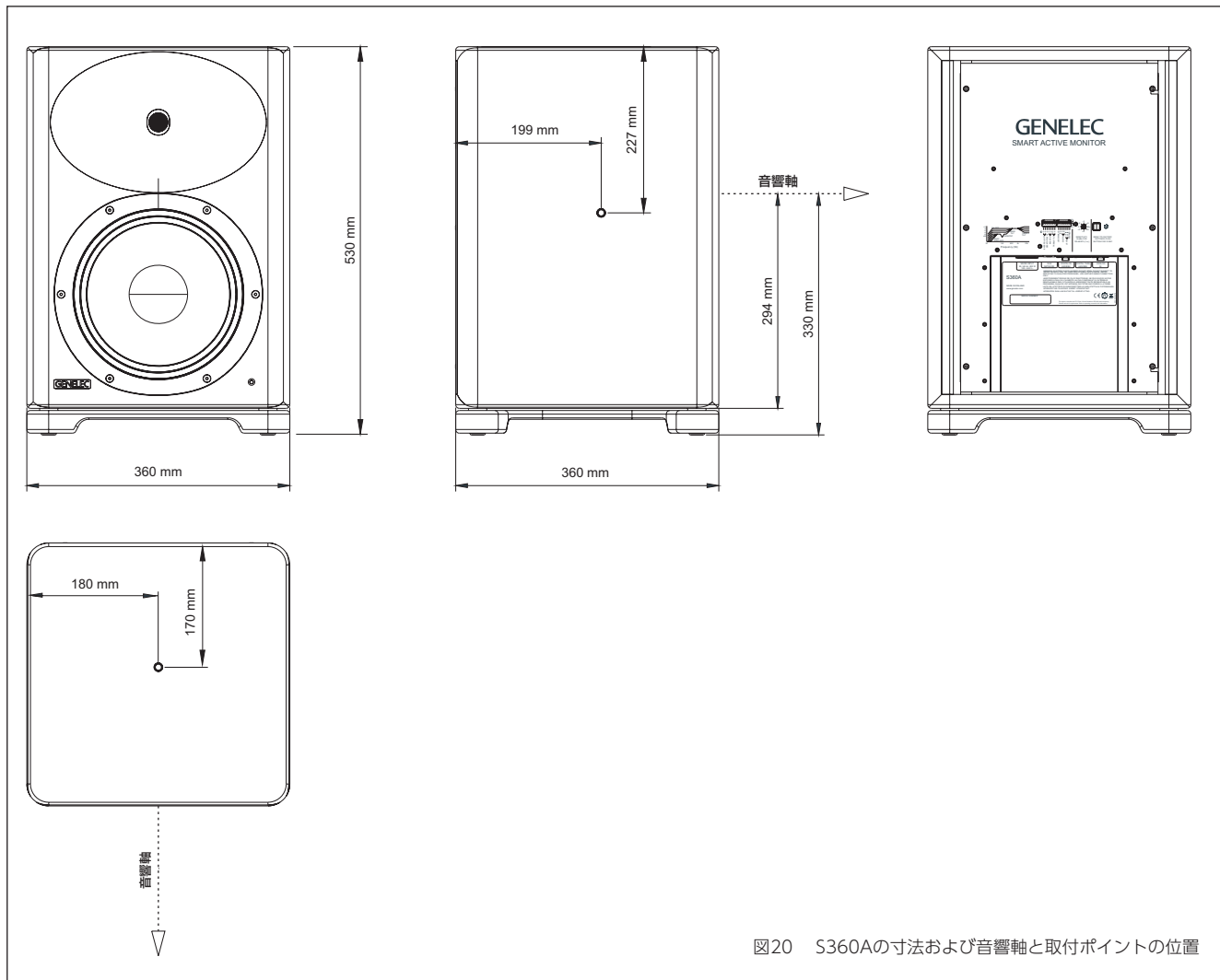
製造元によって明示的に承認されていない変更が加えられた場合、FCC規則に基づいてユーザーが機器を操作する権限が無効となる場合があります。

## 製品データと測定結果









システム仕様	
	S360A
低域カットオフ周波数、-6 dB	≤ 36 Hz
高域カットオフ周波数、-6 dB	≥ 22 kHz
周波数特性の精度、± 2.0 dB	39 Hz~19 kHz
瞬間最大SPL出力、軸上、半自由空間、平均 (100 Hz~3 kHz) @1 m	≥ 118 dB SPL
同条件におけるIEC特性ノイズ (保護回路による制限) @1 mを用いた長期最大RMS出力	≥ 112 dB SPL
室内におけるペア毎の最大ピークSPL出力、@1 m	≥ 128 dB SPL
残留ノイズ・レベル、自由空間、軸上@1 m (A特性)	≤ 10 dB
高調波歪@95 dB SPL @1 m、軸上 周波数： 50~100 Hz 100 Hz~5 kHz > 5 kHz	< 1% < 0.5% < 1.5%
ドライバー ベース トレブル	250 mm (10インチ) コーン コンプレッション・ドライバー 44 mm (1.7インチ) 、スロート25 mm (1インチ)
重量	30 kg
寸法 高さ 幅 奥行き	530 mm 360 mm 360 mm

アンプ	
	S360A
ベース・アンプ瞬間最大電力 トレブル・アンプ瞬間最大電力 (長期出力電力はドライバー保護回路により制限)	250 W 100 W
通常時のアンプ・システムTHD	< 0.01%
電圧	AC100~240 V 50/60 Hz
消費電力 ISSオン オフ フル出力 (瞬間)	< 1 W 11 W 230 W

信号処理	
	S360A
XLRメス・アナログ入力端子、バランス 10 kΩ	ピン1 グラウンド ピン2 反転なし、 ピン3 反転
最大アナログ入力信号 アナログ入力感度 (100 dB SPL @1 m) アナログ入力ゲイン	+25.0 dBu -6 dBu 0、+6、+12、+18 dB
XLRメス・デジタル入力端子 110 Ω デジタル信号出力/XLRオスThru端子 110Ω	AES/EBUシングル・ワイヤー AES/EBUシングル・ワイヤー
デジタル・オーディオ入力 ワード長 サンプル・レート デジタル入力感度 (100 dB SPL@1 m) デジタル入力ゲイン	16~24 bits 32~192 kHz -30 dBFS 0、+6、+12、+18 dB
コントロール・ネットワーク タイプ 接続	独自のGLM™ネットワーク 2 x RJ45、CAT5ケーブル
クロスオーバー周波数	1.4 kHz
GLM™ソフトウェア周波数特性調整* パラメトリック・ノッチ・フィルター シェルピング・フィルター	16 2 x LF、2 x HF
システム・ルーム特性補正	AutoCal™、GLM手動調整、スタンドアローン*

\* ノッチ/シェルピング・フィルター調整、AutoCal™およびGLM™手動システム・キャリブレーション機能はGLM™ (Genelec Loudspeaker Manager) ソフトウェアの一部です。



# GENELEC®

株式会社ジェネレックジャパン  
<本社>  
107-0052  
東京都港区赤坂二丁目22番21号  
電話：03-6441-0591

<長野オフィス>  
389-1104  
長野県長野市豊野町浅野1777番地1-2

修理お問い合わせ先  
<ジェネレックサービスセンター>  
e-mail: [support@genelec.jp](mailto:support@genelec.jp)  
電話：050-3786-1236  
平日10:00 ~ 17:00  
(夏季 / 年末年始休業を除く)